



福間地域郷づくり計画



2019年3月策定

福間地域郷づくり推進協議会

目次

I. 「郷づくり」計画策定の目的等	1
1、計画策定の目的と位置づけ	1
2、計画期間	1
II. 地域の現況と課題	2
1、人口などの現状	2
2、ふくま郷づくりの会の10年の軌跡と地域づくり計画の検証	5
3、住民アンケート調査や意見交換会の開催	12
4、これからのふくま郷づくりの会の課題	16
III. 将来像	17
IV. 活動分野と基本方針	18
V. 取り組む主な活動	19
VI. 活動目標の設定	24
参考	26
1、検討の経緯	26
2、福間地域郷づくり計画の検討メンバー	27

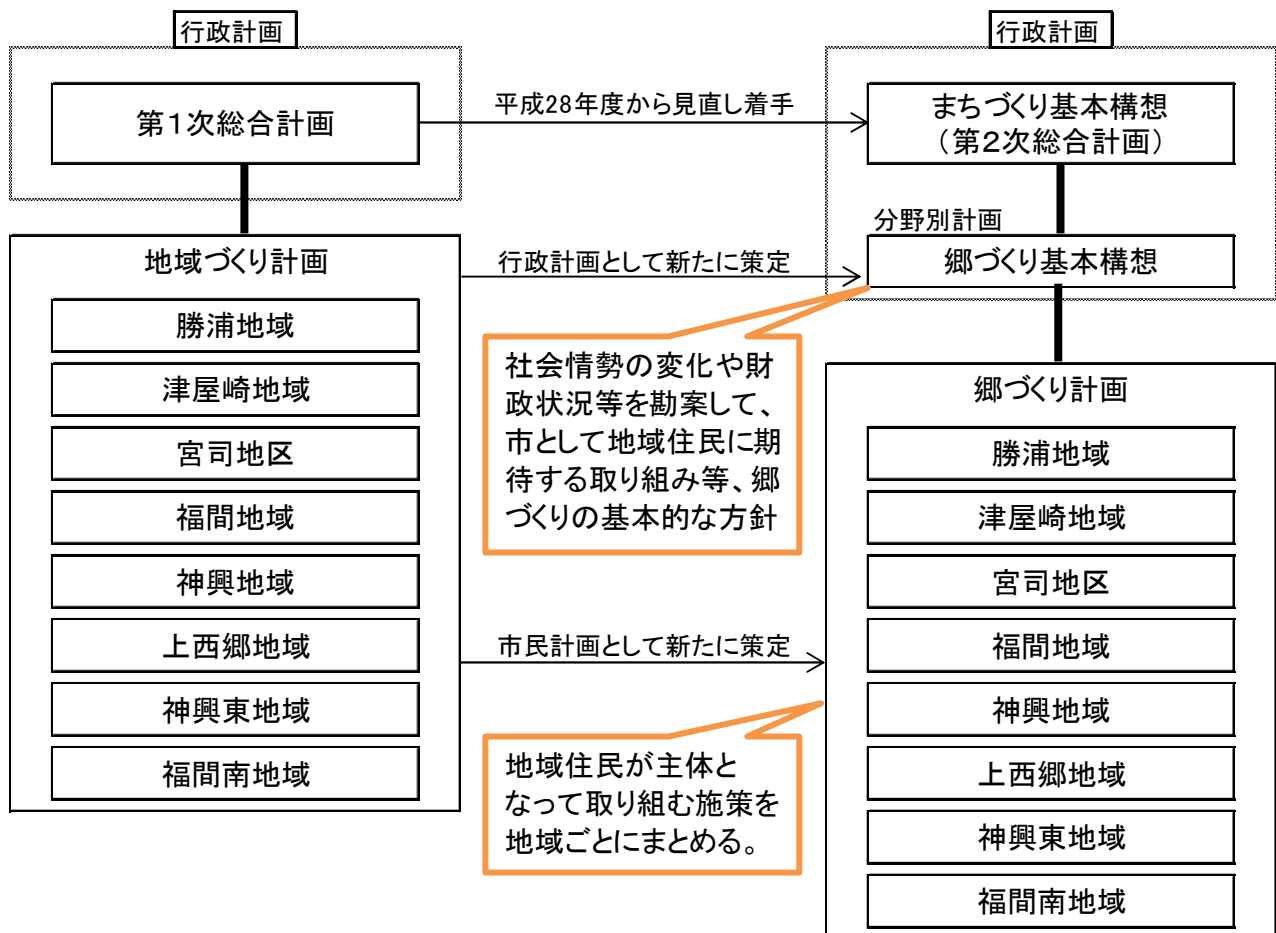
I. 「郷づくり」計画策定の目的等

1. 計画策定の目的と位置づけ

第1次福津市総合計画（計画期間：平成19年度～28年度）の策定に合わせて、平成17年度～18年度に「地域づくり計画策定市民会議（以下「市民会議」という。）」を主体にして概ね小学校区単位の8地域（以下、「郷づくり地域」という。）ごとに地域づくり計画を策定し、郷づくり推進事業に取り組んできました。

平成19年度から約10年が経過したことから、郷づくりのあり方について見直しを行う時期を迎え、市は、平成30年3月に郷づくり地域の役割や支援方針等を体系的にまとめ、今後の郷づくりの指針となる「郷づくり基本構想」を策定しました。

そこで、郷づくり基本構想に基づき、これまでの「地域づくり」のうち地域住民が主体となって取り組む活動を「郷づくり」と再定義し、地域住民が主体となって策定する「郷づくり」の行動計画として本計画を策定するものです。



2. 計画期間

本計画の計画期間は、「福津市まちづくり基本構想（策定中）」の目標年である2030年までとし、地域を取り巻く社会情勢や地域課題の大きな変化に合わせて計画を変更できるものとします。

Ⅱ．地域の現況と課題

1、人口などの現状

福間地域郷づくり推進協議会（以下「ふくま郷づくりの会」という。）に所属するエリア（以下「福間地域」という。）における人口や世帯数、年齢構成等について、この10年間における推移は次のとおりです。（人口等データについては、4ページ参照。）

（1）人口・世帯数について

平成30年3月末現在の福間地域の人口は15,312人、世帯数は6,697世帯で、市全体に対して人口は24.1%、世帯数は25.2%を占めています。

この10年間では、人口は3,922人の増加、世帯数は2,118世帯の増加となっており、市全体に対する割合では、人口、世帯数ともに3.7ポイントの増加となっています。

増加傾向の要因としては、福岡都市圏の拡大による影響で、JR福間駅に近い場所に住宅を求める人が増えたこと、それによる宅地開発で小学校区が見直され、花見3区・4区が福間小学校区へ編入されたことと、旧サンピア跡地が宅地開発され、西福間5区として新たに加わったことが考えられます。西福間5区については、現時点ではまだ開発途中ということもあり、今後更なる人口や世帯数の増加が見込まれます。

（2）高齢者・子どもについて

平成30年3月末時点における6歳未満の子どもの数は990人で、本地域の人口の6.5%を占めており、本地域の人口に占める割合は平成20年3月末時に比べて1.5ポイント増加しています。これは市全体と同じ傾向となっています。

一方、平成30年3月末時点における65歳以上の人口は3,915人で、本地域の人口の25.6%を占めており、本地域の人口に占める割合は、平成20年3月末時に比べて3.7ポイント増加しています。市全体ではこの10年で4.6ポイントの増加であることを考えると、全体との比較において高齢化の進行が抑えられていることがうかがえます。この要因としては、先述した人口や世帯数の増加が、子育て世代を中心としたものであることが考えられます。

（3）福間地域における10年間の動向について

本地域におけるこの10年で変化したこととしては、先述のとおり、まず、小学校区再編により花見3区・4区がふくま郷づくりの会に加わったことがあります。花見1区・2区・3区・4区は花見総区として、より一体的な活動の展開が図られると考えられます。

次に、大規模な宅地開発により新たに発足した西福間5区についても、多くが市内の他地域や市外から本地域への転入者になると予想されます。小学校区再編と福間地域への転入者の増加はこの10年間における大きな変化ですが、従来からこの地に住む人と新たにこの地に住む人との調和と融合、そして革新が、ふくま郷づくりの会の中では今後求められると考えられます。

人口や世帯数の推移を確認した結果、市全体における傾向に比べて本地域の高齢化が抑えられているとはいえ、実際に高齢化が進んでいることは間違いありません。本地域では、小地域福祉会や介護予防サロンの活動数が多く、市内では一番早く連絡協議会も発足しました。また、ふくま郷づくりの会ではそれらの支援も行っており、地域全体として高齢者の見守り体制が進められています。

一方で、子どもの数は増加傾向にあり、福間小学校も増改築により対応しているところですが、小学校の児童数の急激な伸びが子どもの安全な生活や育成にマイナスの影響を与えることのないよう、地域での見守り体制の一層の充実が求められます。そのためにも、平成 23 年度から始まったコミュニティ・スクールにより、地域と学校の結びつきをより強くしていく必要があります。

さらには、福間小校区内においても、自治会加入率の低下傾向や、地域行事における参加者の減少、後継者不足といった問題もあります。

以上のとおり、本地域では、この 10 年間で様々な変化が起こっていますが、ふくま郷づくりの会は、これらの変化を受け止めて、自分たちの住むこの地域がより良くなるよう、みんなで思いを語り合い、支え合い、未来をつくっていくことが求められます。

(参考) 福間地域における人口等データ

平成30年3月末時点

行政区	合計人数 (人)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	6歳未満 (人)	65歳以上 (人)	高齢化率
花見1区	1,375	676	699	634	79	380	27.6%
花見2区	1,035	506	529	471	57	320	30.9%
花見3区	1,553	722	831	690	101	506	32.6%
花見4区	1,471	705	766	624	98	234	15.9%
南町区	516	253	263	224	37	140	27.1%
緑町区	1,521	705	816	641	116	438	28.8%
本町区	490	214	276	221	16	173	35.3%
福間松原区	420	203	217	182	24	109	26.0%
昭和1区	727	344	383	314	56	175	24.1%
西福間1区	998	465	533	428	63	331	33.2%
古町区	102	39	63	61	3	33	32.4%
大和1区	3,208	1,501	1,707	1,433	143	690	21.5%
大和2区	1,587	736	851	676	113	384	24.2%
西福間5区	309	161	148	98	84	2	0.6%
ふくま郷づくり計 ※下段は平成20年3月末数値 (カッコ内)とその差	15,312	7,230	8,082	6,697	990	3,915	25.6%
	(11,390) +3,922	(5,328) +1,902	(6,062) +2,020	(4,579) +2,118	(567) +423	(2,490) +1,425	(21.9%) +3.7%
市全体 ※下段は平成20年3月末数値 (カッコ内)とその差	63,545	29,876	33,669	26,608	4,264	17,709	27.9%
	(55,784) +7,761	(26,111) +3,765	(29,673) +3,996	(21,265) +5,343	(2,607) +1,657	(12,999) +4,710	(23.3%) +4.6%
市全体に対する ふくま郷づくりの割合 ※下段は平成20年3月末数値 (カッコ内)とその差	24.1%	24.2%	24.0%	25.2%	23.2%	22.1%	—
	(20.4%) +3.7%	(20.4%) +3.8%	(20.4%) +3.6%	(21.5%) +3.7%	(21.7%) +1.5%	(19.2%) +2.9%	—

平成20年3月末時点

行政区	合計人数 (人)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	6歳未満 (人)	65歳以上 (人)	高齢化率
花見1区	1,328	638	690	538	77	327	24.6%
花見2区	1,133	545	588	484	62	271	23.9%
南町区	478	229	249	187	28	137	28.7%
緑町区	1,385	631	754	571	90	377	27.2%
本町区	512	233	279	203	16	148	28.9%
福間松原区	464	218	246	182	21	87	18.8%
昭和1区	562	269	293	225	26	140	24.9%
昭和2区	949	429	520	374	33	254	26.8%
古町区	143	62	81	76	4	43	30.1%
大和1区	3,120	1,474	1,646	1,208	137	377	12.1%
大和2区	1,316	600	716	531	73	329	25.0%
ふくま郷づくり計	11,390	5,328	6,062	4,579	567	2,490	21.9%
市全体	55,784	26,111	29,673	21,265	2,607	12,999	23.3%
市全体に対する ふくま郷づくりの割合	20.4%	20.4%	20.4%	21.5%	21.7%	19.2%	—

2、ふくま郷づくりの会の10年の軌跡と地域づくり計画の検証

(1) ふくま郷づくりの会の10年の軌跡

本計画の策定にあたり、これまでのふくま郷づくりの会の活動を振り返り、検証するため、検証委員会を立ち上げました。検証委員会による検証結果については、「ふくま郷づくりの会の10年の軌跡」として、次のとおりとなっています。

① はじめに

「ふくま郷づくりの会」は、平成17年度に市の要請を受け組織された、本地域の市民会議を経て、地域の特性や状況に応じた地域づくり計画を策定し平成19年度から活動開始しました。しかし、市が指し示す地域自治や地域分権の必要性の思いを醸成できないままのスタートとなったため、初年度から数年間の活動は、市（市職員）との共働なくして継続できなかったと言っても過言ではありませんでした。

平成23年度には、活動拠点が建設され、これを機に活動の幅が大きく広がり、福間小学校・福間中学校との連携や、活動拠点を核として地域に根ざした活動へと進化してきました。

② 平成19年度（初年度）～23年度

ふくま郷づくりの会は、地域推進活動として、地域福祉部会・子育て支援部会・環境景観部会・安全安心部会・区長会の5部会でのスタートでした。

主たる活動としては、旧福間町のわがまちづくり事業の活動を継続したものでした。子育て支援部会は、子ども達が自由に外遊びできる冒険あそび場「わくわくプレーパーク」や子育て世代が親子で集える「子育てサロンわくわくひろば」を事業展開しました。地域福祉部会は、転倒予防のための「てんとうむし（転倒無視）体操」を専門家の指導により定期開催しました。安全安心部会は、「通学路の見守り活動を充実させる」をモットーにして、見守り隊の皆さんとともに、通学時の子どもたちの安全確保を模索しました。環境景観部会は、地域のシンボルでもある西郷川に関する様々な提案が検討されましたが、まずは旭橋上流域の河川敷清掃に着手しました。しかし、新たな橋の建設が始まり、河川敷での作業は中止し、今日に至っています。

平成20年には、ふくま郷づくりの会のシンボルマークを募集し、西郷川や豊富な緑、そして輝く未来を模した、本地域を象徴する自慢のマークが誕生しました。

平成23年8月にはようやく活動拠点となる福間郷づくり地域交流センターが完成しました。施設の愛称を募集した結果、「ふくま」、「マリーン」、松林の「りん」を組み合わせた「ふくまりん」に決定しました。

③ 平成24年度以降

これまでのふくま郷づくりの会の運営を振り返り、今後の活動展開を考え組織体制の大幅な再編を行うため、平成24年度以降、繰り返し会則を改定しました。

平成25年度からは、福間小学校区内11地区の自治会と連携し、地域住民のすべてを会員とする新組織で活動をスタートしました。また、「福間地域づくり計画」に基づいた5部会の事業等を円滑に推進していくため、校区内全自治会長、役員（会長・副会長・会計・事務局長）、

5部会長、福間小学校長、福間中学校長、市担当職員で構成する企画運営委員会を設置しました。将来的には地域の各種団体、事業者等からも企画運営委員会の構成員として活動されることを視野に入れて参画への働きかけをしていくこととしました。会議としては大人数であるため議論や運営がスムーズに進むのかと危惧されましたが、活動の中心メンバー全員による企画運営が可能となり、様々な成果につながりました。現在では、民生委員福間地域ブロック長と福間小学校PTA会長もメンバーとして参画しています。

また、地域の様々な団体との共働を進め活動の輪が更に広がる一歩として、地域福祉部会が担当する「郷づくり小地域福祉会・サロン連絡協議会」が設置され、自治会毎に様々な福祉活動を繰り広げている「小地域福祉会」や「介護予防サロン」の代表者の方々の交流や情報交換が行われるようになりました。

発足当時の区長会は、一度解散しましたが、11の自治会の郷づくりの会の活動への理解が進み、平成24年度より「自治会長会」として復活しました。ふくま郷づくりの会における最初の全体事業となったクリーン大作戦開催における大きな力となりました。その後、本事業は地域内の多くの事業所の皆さん、福間中学校生徒のボランティアも加わり、毎年、花火大会前日と年末の2回実施を継続しています。

5部会の活動も更なる展開と充実を図り、これまで以上に広がりを見せ、成果を得ることができました。

地域福祉部会は、「歩いて行ける場所で転倒予防体操ができる」を目指し、福間会館の他に花見公民館や緑町公民館でも定期開催するようになりました。自治会の介護予防サロンでも活動が紹介されています。また、安心情報セット（独居高齢者等が救急医療情報用紙などを入れたプラスチック容器を冷蔵庫に保管し、緊急時に役立つグッズ）を地域の必要な方々が利用できるよう普及に努めました。

子育て支援部会は、市内の子ども関連団体（NPO法人プレーパークふくつ等）と連携することにより、わくわくプレーパークの開催を毎月1回から毎週土・日曜日に開催できるようになりました。研修を受けたプレーワーカーを配置し、子ども達の居場所として、また多世代の交流の場として定着しました。子育てサロンわくわくひろばは、福間小学校の教室で実施していましたが、ふくまりんの開設に伴って会場を移しました。乳幼児親子のあたたかい居場所として、また、子育て・子育て・親育ちを支援する場として、毎月3回の開催を継続してきました。

安全安心部会は、平成24年から自主防災組織設立の機運を醸成させるため、HUG（避難所運営ゲーム）を使ったワークショップを開始しました。少しずつ開催依頼も増えていき、平成29年度までに延べ700名が経験しました。近年では中学3年生の防災の授業を受け持ったり、近隣の地区や企業からの依頼を受けたりしています。

環境景観部会は、藪のような状態だった防風保安林の松林保全活動に着手しました。福間中学校の生徒たちによる活動参加が加わり、松林の清掃活動だけではなく、中学生と勉強会や対話を行いながら、彼らの夢やアイデアを生かした道しるべ・掲示版等を松林内に設置する事業を実施しました。これらの活動が評価され、福岡県共助づくり社会奨励賞を受賞しました。中学生との対話の中で出されたアイデアの1つ「松林ウオーク」は、地域住民や事業所の協力を得て、平成27年2月に「第1回ふくま海岸松林ウオーク」として結実したのです。

広報部会は、ふくま郷づくりの会の認知度を高めることを目的として、「ふくま郷づくりニ

ューズ」を発行してきました。紙面の内容や配布対象等について試行錯誤を重ね、平成 26 年度からは、毎月 1 回、本地域内全戸配布を行うようになりました。広報紙による周知・PR 活動の展開に応じるように、住民の皆さんから、ふくま郷づくりの会の行事等に関心を寄せる声が聞こえてくるようになり、行事への参加者も増えてきました。

④ これから

創成の時期を経て、今後は活動の担い手を増やし組織を定着させ、地域の特性や状況に応じた地域自治の仕組みづくりを確立していくとともに、地域分権も視野に入れた運営を目指す段階にはいりました。



← ふくま郷づくりの会のシンボルマーク

西郷川、豊富な緑、そして輝く未来を模した地域を象徴したもの



↑ 福間郷づくり交流センター（ふくまりん）

(2) 分野ごとの検証

ふくま郷づくりの会では、地域づくり計画（平成 18 年度作成）に挙げた 4 つの分野別の将来像に向けて、それぞれ専門部会に分かれ、取り組んできました。これまでの取り組みについて、各専門部会で検証した内容は次のとおりです。

①地域福祉部会

項 目		内 容
分野名		地域福祉分野
これまでの計画内容	将来像	出かけよう！集まろう！ふれあおう！ゆかいな仲間！！ ～みんなで作ろう集いと活動の輪～
	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける範囲に人が集まる場所をつくり、元気な高齢者が自ら考え、取り組む仕組みをつくる。 ・情報を発信する。 ・子どもとの交流で高齢者も若返ろう！！
	取り組む活動	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防体操(てんとうむし体操)教室の実施と普及をすすめる。 ・お互いの気持ちを言い合う「言い分を聞く会」をつくるなど交流のきっかけをつくり、指を出す人・とまる人を増やす。 ・癒しの場、憩いの場として公民館を上手く利用する。
取り組んできた実績や問題点等		<ul style="list-style-type: none"> ・てんとうむし体操教室は、開催場所・参加者ともに増え、効果が大きいと考えられる。 ・手芸教室や食事会（会費制）を開催している。 ・参加者は増えているが、部会員の固定化と高齢化（広がりがない）が進んでいる。



↑ (左) 転倒予防体操（てんとうむし体操）教室の様子 (右) 郷づくり・小地域福祉会・サロン連絡協議会の様子

②安全安心部会

項 目		内 容
分野名		防犯・防災分野
これまでの計画内容	将来像	地域ぐるみで防犯・防災。災害は忘れた頃にやってくる
	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを地域のネットワークで守る。 ・犯罪が起こりにくいまちの雰囲気をつくる。 ・避難場所を確保し、場所を明示する。 ・ご近所の底力（協力体制、連絡・伝達体制）を充実させる。 ・地域住民みんなで考え、交通安全のためのルールや環境をつくる。
	取り組む活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材等を活用して子どもの交通安全を確保する。 ・住民参加で「危険箇所（ホットスポット）を調べてマップ化し、その場所で重点的に取り組みを行う。 ・隣近所の付き合いを深め、その中で災害時の援助を必要とする人を把握し、援助方法も決めておく。
取り組んできた実績や問題点等		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の初期から中期にかけて実働メンバーが少ない状態が続いたため、大きな活動ができなかった。 ・子どもたちが危険から逃れることができるように「大声出し会」、防犯・防災に関する講演会等のイベントを行った。 ・中期以降、地域の自主防災組織立ち上げの機運を醸成するため、HUG（避難所運営ゲーム）を主事業とした。 ・福津市一斉防災訓練をきっかけに、各自治会による防災訓練の活性化及び福間小校区自主防災組織を設立することができた。また、平成30年度に防災フェスタを開催することで、行政や関係団体との連携強化を図ることができた。



↑（左）HUG（避難所運営ゲーム）の様子 （右）ふくま防災フェスタ 2018の様子

③子育て支援部会

項目		内容
分野名		子育て分野
これまでの計画内容	将来像	大人が学び合い、手をつないで、子どもが生き生きと豊かに育つ「場」づくり
	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 大人がワクワクする「場」、子どもがワクワクする「場」、大人と子どもと一緒にワクワクする「場」をつくる。 子どもがワクワクする「子ども会」、子どもを見守る「育成会」を育む。
	取り組む活動	<ul style="list-style-type: none"> 人（子どもから大人まで）や情報等の交流・発信の場をつくる。 今ある取り組み（わくわくプレーパーク、わくわくひろばなどの子育てサロン）を継続し、充実させる。 子どものリーダーを中心に子どもの手による企画運営をすすめる。 子育てを見守り、子どもの自主性を育むため、大人同士の話し合いの場をつくる。
取り組んできた実績や問題点等		<ul style="list-style-type: none"> わくわくプレーパークは子育て支援部会とNPO法人プレーパーク福津との協働運営により、毎週土・日曜日に開催となり、地域の子どもの居場所だけでなく、多世代の交流の場となっている。 プレーパークで遊んだ子ども達が高校生、大学生となってプレーワーカーとして支える手になっている。 子育てサロンわくわくひろばは、平成24年9月から、ふくまりんで毎月3回開催を継続し、地域の乳幼児親子の居場所として定着している。 参加者の中からスタッフとして、活動の担い手が出てきたり、自主サークルなど新しい活動が生まれた。 校区変更により、子育てサロンはなみが加わった。 子ども会、子ども会育成会との連携や支援までには至らなかった。



↑ (左) プレーパークの様子 (右) 子育てサロンわくわくひろばの様子

④環境景観部会

項目		内容
分野名		環境景観分野
これまでの計画内容	将来像	あすを夢見る、先祖から引継ぐ白砂青松のまちづくり
	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・先祖代々受け継がれてきた、美しい松林ときれいな砂浜を守る。 ・生物がたくさんすみ、美しかった昔の川に戻す。 ・公園のあり方を見直し、市の未利用地を活用した公園を創造する。 ・ごみのないまちづくりを目指す。・ボランティアを育成する。
	取り組む活動	<ul style="list-style-type: none"> ・松林保全活動を継続する。 ・公園及び周辺の維持管理を行う。
取り組んできた実績や問題点等		<ul style="list-style-type: none"> ・松林保全活動が定着してきた。 ・松林保全活動は地域連携が進み、参加者の増加につながった。 ・コミュニティ・スクールの取り組みとして、福間中学校と「環境と生活」のテーマで、保安林としての松林保全に取り組んだ。この活動に地元事業所の賛同も得て連携につながった。 ・地域交流会での情報交換会、環境シンポジウム、環境フォーラム等に参加し、活動成果を発表している。 ・西郷川の清掃作業は平成20年から開始したが、平成23年から西郷川沿いにおいて橋の新設工事が始まり、河川への昇降について危険性が高まり中止に至った。その後は活動主体を松林保全へ変更したため、活動再開には至っていない。 ・すべての活動を通じて参加者の高齢化が進んでいる。



↑ (左) 松林保全活動(清掃作業)の様子 (右) 松の苗木を植える植樹祭の様子

3、住民アンケート調査や意見交換会の開催

現在のふくま郷づくりの会の活動の現状や成果、今後求められるニーズ等について幅広く住民の声を得るため、アンケート調査の実施と意見交換会を開催しました。

(1) 郷づくり事業に関するアンケート調査の実施

①アンケート調査の概要

調査名称	郷づくり事業に関するアンケート調査
対象者	福間小学校区の住民
配布数	150部
回収数	97部
回収率	64.7%

②調査項目及び結果

ア、ふくま郷づくりの会が取り組んでいる事業の認知度

設問内容	ふくま郷づくりの会が取り組んでいる事業で知っているものに○をつけてください。(複数回答可)	
回答結果	健康福祉部会	① てんとうむし体操 (72人) ② 安心情報セット (26人)
	子育て支援部会	① 子育てサロンわくわくひろば (52人) ② わくわくプレーパーク (58人) ③ ふくまキッチン (17人) ④ 子育てサロンはなみ (8人)
	安全安心部会	① HUG (避難所運営ゲーム) (20人) ② 西郷川ふれあいプロジェクト (17人)
	環境景観部会	① 松林の保全活動 (54人) ② 松林の植樹 (31人) ③ 松林内の小鳥巣箱の設置 (16人)
	郷づくり全体	① 海岸松林ウオーク (60人) ② 福間小校区クリーン大作戦 (41人) ③ ふくま郷づくりの会ニュース (47人)

イ、地域の住み心地について

設問内容	福間小学校区の住み心地はいかがですか？住みやすいと感じる点、住みにくいと感じる点や課題だと思ふことをお聞かせください。
回答結果	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすさとしては、生活の利便性と自然が豊かなこと、また人が穏やかで温かいなど人のつながりからの住みやすさを感じている。 ・住みにくさとしては、交通量の増加による安全の確保、道路の整備の遅れや高齢化によって自治会機能が低下していること、新旧住民がうまく結びつくかという心配がある。

ウ、これから郷づくりで取り組んだ方が良くと思うこと

設問内容	福間小校区を住みよいまちにしていくために、ふくま郷づくりの会でこれから取り組んだ方が良く思うことをお聞かせください。（これまでの取り組みや新たな取り組み等）
回答結果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災への取り組み ・担い手づくり ・これまでの取り組みの継続 ・高齢者を手助けしていく環境づくり ・高齢者と子どもと一緒に遊び、学んで地域の伝統づくり ・積極的に若い人が参加できる場をつくって、地域の活性化につなげる取り組み ・生活道路や通学路の安全点検

エ、仲間を増やすアイデア

設問内容	ふくま郷づくりの会では、「地域福祉」「子育て」「安全安心」「環境」などの分野で一緒に活動する仲間を求めています。仲間を増やすためには？あなたのアイデアをお聞かせください。
回答結果	<p>(広報の工夫に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういうことをしているのかについて、もっと広く、いろいろな人達に知ってもらえるようにする。 ・こんな特技のある人の募集等、具体的に呼び掛ける。 ・広く浅く、みんなで少しずつ時間の協力をできるようにする。 ・シニア世代の元気がある人達に活動への参加を働きかける。 ・郷づくりの会ニュースをもっと皆さんの目にふれるようにしたい。 <p>(居場所に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い意味でのたまり場をつくる。 ・交流の場を増やす。 ・一人暮らしの高齢者が気兼ねなくおしゃべりできる場所が欲しい。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の見直し せっかく集まった仲間の負担を増やさないようにする。

(2) 意見交換会「ふくま未来会議」の開催

より多くの住民の皆さんの意見やアイデアから新たな計画策定に向けたヒントを得るために、住民対象として回覧文書等により呼びかけ、「ふくま未来会議」と題して意見交換会を開催しました。

全2回の会議では、小学生から70歳代の人まで、たくさんの人たちが集まり、わいわいと福岡地域への思いを語り合いました。会議で出た意見やアイデアは、15ページのとおりです。

なお、この「ふくま未来会議」において、これまでの郷づくりの活動のどの分野にも当てはまらない新たな視点に基づく意見やアイデア、分野を越えて関わるものを「**地域の芽**」としています。

	期 日	会 場	参加者数
第1回ふくま未来会議	平成30年8月4日(土)	ふくとぴあ	26人
第2回ふくま未来会議	平成30年8月18日(土)	ふくまりん	36人



↑ (左、右) 第1回ふくま未来会議 (会場：ふくとぴあ) の様子



↑ (左、右) 第2回ふくま未来会議 (会場：ふくまりん) の様子

分野 担当	地域の芽	福祉	子育て	安全安心	環境	広報
郷づくり	<ul style="list-style-type: none"> 意見を出せる場が少ない 和・協調 休憩所が少ない 予約なしで気軽に集える場 地産地消の市場設置 稼ぐまちづくり 同年代のつながりがほしい 夏祭り等行事にボランティアがほしい 住民負担の軽減 郷づくりの担い手が増えてほしい 新旧住民の交流 自治会＝高齢者になっている 又ぜーさん小話 市と郷づくりのパートナーシップ強化 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の実態が掴めない 高齢者が笑える場所作り 買物弱者と助け合えるように 障害者の人たちを知らない 地域内の助け合いがほしい 健康寿命の延伸 高齢者中心にラジオ体操の会を組織してはどうか ボランティアにポイント制を導入してはどうか ミニバスが高い 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自由に参加できる居場所作り 子どもたちの勉強場所 諏訪神社相撲大会の参加者減 子ども会がなくなりそうで不安 子ども会役員の負担が多い 子どもの声を聞いた居場所づくり わかたけ広場をプレーパークにしてほしい コミュニティ・スクール 遊び場所をもっとほしい 公園の禁止事項 広いグラウンド 子どもの電子メディアの使用制限 各学校にクーラー 小学校の校区割りに無理がある 公園の球技許可 通学路整備 	<ul style="list-style-type: none"> 知らない人でも挨拶しあえるまちに 街灯 見守り隊の継続 安全なまちに 地域で防災・減災 西郷川沿いがウォーキングできるコースになったらいいな 監視カメラの増設 西郷川プロジェクト大雨洪水対策 防災無線が聞こえにくい 通学時間の通学路交通規制 危険な道の整備 街灯が少ない ミニバス 	<ul style="list-style-type: none"> 松林・松林ウォークを 西郷川の環境整備 ゴミのないきれいなまちにしてほしい 自然環境保全 清掃活動に学生の参加を 西郷川の整備 福間駅バスロータリーの整備 海、海岸、松林の自然を残す 市役所付近の工事が 保安林(松林)の整備してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> どんな行事があるのか知らない ふくまりんが狭い 各公民館でふくまりんの出張イベントをしてほしい 回覧板を読まない 郷づくりの知名度がまだ低い 福津市広報を各学校に設置する 駅から海岸まで素敵な名前の通りを作りたい 各世帯に地域情報を流すスピーカーを設置してほしい
行政	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗の活用 道路整備 企業誘致 夏休み中の学校プール開放 グランドゴルフ場がほしい おしゃれな道を作りまちを活性化 アスレチック場・遊べるプールがほしい 					
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者向けの喫茶店がほしい 宿泊施設がない 定食屋・カフェ等 空き店舗を利用した交流の場 福間駅西口に陸橋 商店街等の個人商店 宮地嶽線復活 駐車場・駐輪場が少ない PC教室 駅から海岸までモノレール 		<ul style="list-style-type: none"> プレーパークボランティアを増やす 			
自分	<ul style="list-style-type: none"> 物々交換 郷土芸能(きじのめんどり) 入社試験なし、やりたいことができて高齢になっても働ける会社を作りたい 緑町に軽SHOPがほしい 宿題のない自由な日がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやり・愛を持って 秋休みがほしい! 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題を少なくし 子ども育成会 プレーパークに幅広い世代の参加があれば 			<ul style="list-style-type: none"> 美しい夕日 西郷川で泳ぎたい おいしい魚がたくさん 西郷川でアジを釣りたい 漁港でアユを釣りたい 西郷川では釣れない

↑ 「ふくま未来会議」で出た意見やアイデアを分野別に整理したもの

4、これからのふくま郷づくりの会の課題

(1) 健康寿命の延伸を目指して、高齢者自身が健康に安心して暮らせる地域づくりに参画すること (→福祉分野)

今後も高齢者が増加することは必至です。これまでの支援してもらう高齢者から、高齢者自身が健康寿命を延ばす活動や工夫をし、お互いへの声かけや安否確認も行ったり、孤立高齢者をできる限りつくりださない地域を目指します。また、歩いて行ける場所に目的を持って集う機会を増やす等の工夫が、地域に求められています。

(2) 子どもたちにとって安全・安心なまちづくり (→防犯・防災分野)

近年地震や局地的な大雨、台風による災害が多発し、甚大な被害が出ている地域があります。災害はいつ起きてもおかしくありません。日頃から災害に対する十分な備えを行い、発生直後の迅速かつ効果的な対応を図り、「被害を軽減する」ためにも地域の人たちとのつながりを大切にし、防災意識を高めるための訓練(防災訓練)や教育(防災教育)をすすめていく必要があります。

また、そのつながりは、子どもたちにとって安全・安心なまちになります。子どもにとって安全・安心なまちは、大人にとっても安全・安心なまちです。そのためにも、地域の中の様々な関係機関や諸団体と共に、防犯まちづくりを目指す効果的な活動が求められています。

(3) 安心して子育て・子育てができる「場」づくり (→子育て分野)

本市において、福間小校区の人口は特に増加しており、中でも子育て世代の転入が多く、待機児童が多いため、希望する保育所や幼稚園に入りにくい状況があります。福間小学校、中学校でも児童・生徒数の増加は、今後も暫くは続くことが予想されます。

また、子どもたちを取り巻く環境が変化し、育ちに欠かせない三つの「間」＝「時間」・「空間」・「仲間」が失われています。子どもたちがのびのびと育つことができ、安心して子育てができる地域づくりと、それを支える継続的な担い手づくりが求められています。

(4) 持続的なボランティア確保の方策 (→環境景観分野)

自然の環境と景観を継続的に維持するためには、薬剤をできる限り使わず人の手による保全活動が必要です。現在は多くのボランティアによって保全活動が維持されていますが、未だ十分な参加者には達していないのが現状です。現在、根付いてきた「地域連携」ネットワークを拡げて維持していく必要があります。

Ⅲ. 将来像

ふくま郷づくりの会が目指す将来像は、次のとおりです。

目 指 す 将 来 像

大好き ふくま

～ 人と人とのつながりで 一人一人が輝くまちに ～

歴史ある福間のまちには、これまで先人たちが守り、代々受け継いできた心と豊かな自然があります。変わりゆく社会の中、この地に住む人たちを取り巻く状況や情勢は変わっていることは当然のことですが、変化を恐れず、逆にそれを受け入れる寛容さと、良いものは良いとして活用し、発展させていく前向きな精神が福間のまちにはあります。

受け継がれてきているものと、新たにチャレンジしていく精神との融合が、このまちの原動力であり、それはこれからも続くことでしょう。

福間のまちが、みんなにとって、いつまでも大好きなまちであり続けてほしい、そうあり続けることができるよう、みんなで力を合せて未来をつくっていきたいと願っています。

一人一人の想いや、一つ一つのアイデアを大切にしていき、挑戦し続けることによって、子どもから高齢者まで、誰もが主役となって、夢と未来に向かって歩み続けていくことができるまちになることを目指します。

IV. 活動分野と基本方針

将来像の実現に向けて、ふくま郷づくりの会では活動分野を5つに分けて、それぞれの専門部会が担当し、各基本方針を次のとおり設定します。

分野名	担当	基本方針
福祉	地域福祉部会	基本方針1：高齢者の居場所づくりを通じて、自ら取り組み、健康寿命延伸を目指す活動を支援する。 基本方針2：地域内連携を深めるとともに、世代間交流を進める。
防犯・防災	安全安心部会	基本方針1：地域の防犯・安全対策を強化する。 基本方針2：地域力の強化による防災力の向上を目指す。
子育て	子育て支援部会	基本方針1：子どもがのびのび遊び、大人が子育てを学ぶ場、子どもと一緒に楽しみ、担い手が育つ場をつくる。 基本方針2：子育て関連団体との連携・共働を進める。
環境景観	環境景観部会	基本方針1：先祖代々受け継がれてきた美しい松林ときれいな砂浜（白砂青松と夕陽の風景）を守る。 基本方針2：歴史が残る街並みの景観と環境を守り続ける。
交流	全体及び広報部会	基本方針1：地域内連携につながる活動を行う。 基本方針2：地域内活性化につながる活動を行う。

V. 取り組む主な活動

1. 福祉分野（地域福祉部会）

基本方針1： 高齢者の居場所づくりを通じて、自ら取り組み、健康寿命延伸を目指す活動を支援する。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
転倒予防体操の普及 ★	◎	◎	◎	継続
あんしん情報セットの配布	◎	◎	◎	継続
イベントや講座の情報発信	○	◎	◎	継続
高齢者を対象としたイベントの実施	◎	◎	◎	継続

※★は重点活動

基本方針2： 地域内連携を深めるとともに、世代間交流を進める。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
学校行事へのボランティア参加の促進	◎	◎	◎	継続
地域内諸団体との連絡協議会開催	◎	◎	◎	継続

※★は重点活動

2、防犯・防災分野（安全安心部会）

基本方針1： 地域の防犯・安全対策を強化する。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
あいさつ運動・見守り活動や防犯パトロールへの支援 ★	○	◎	◎	新規
通学路及び生活道路の安全状況等、地域の安全点検	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

基本方針2： 地域力の強化による防災力の向上を目指す。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
HUG（避難所運営ゲーム）の実施 ★	◎	◎	◎	継続
防災訓練の充実	◎	◎	◎	継続
西郷川ふれあいプロジェクトの展開	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

3、子育て分野（子育て支援部会）

基本方針1：子どもがのびのび遊び、大人が子育てを学ぶ場、子どもと一緒に楽しみ担い手が育つ場をつくる。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
わくわくプレーパークの開催 ★	◎	◎	◎	継続
子育てサロンわくわくひろばの開催 ★	◎	◎	◎	継続
子育てサロンはなみの開催 ★	◎	◎	◎	継続
ふくままキッチンの開催	◎	◎	◎	継続
プレーワーカー、サロンスタッフの養成・研修 ★	◎	◎	◎	継続
子どもの権利や子どもの育ちに大切なこと、ESD（持続可能な社会の担い手づくり）を学ぶ学習会の開催	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

基本方針2：子育て関連団体との連携・共働を進める。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
子どもの居場所づくり	◎	◎	◎	継続
川や田んぼの自然観察や生き物調べ	◎	◎	◎	継続
子どもの発達に関する学習会	◎	◎	◎	継続
松林での自然観察や生き物調べ	○	◎	◎	新規
プレイセンターの開設	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

※「プレイセンター」・・・保護者運営による未就園児の遊びの環境づくりと学びの場。

※ふくまアンビシャス広場、環境ネットワーク虹、親と支援者の会ハッピークローバー、NPO法人子どもステーションすてっぷ、子ども会・育成会等、様々な団体との連携・共働を進めます。

4、環境景観分野（環境景観部会）

基本方針1： 先祖代々受け継がれてきた美しい松林ときれいな砂浜（白砂青松と夕陽の風景）を守る。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
松林の保全活動（防風林の環境保全）★	◎	◎	◎	継続
松林（防風林）の育成	◎	◎	◎	継続

※★は重点活動

基本方針2： 歴史が残る街並みの景観と環境を守り続ける。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
歴史ある福間地域の昔を語り継ぐ	○	◎	◎	新規
公園や街並みの環境美化を継続する	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

5、交流分野（全体及び広報部会）

基本方針 1： 地域内連携につながる活動を行う。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
海岸松林ウォーク	◎	◎	◎	継続・発展
福間小校区クリーン大作戦	◎	◎	◎	継続

※★は重点活動

基本方針 2： 地域内活性化につながる活動を行う。

今後取り組む活動	実施スケジュール			継続・新規
	前期	中期	後期	
「ふくま郷づくりの会ニュース」を活用した情報発信	◎	◎	◎	継続
「地域の芽」を育てるしくみづくり ★	○	◎	◎	新規

※★は重点活動

※「地域の芽」・・・これまでの郷づくりの活動のどの分野にも当てはまらない新たな視点に基づく意見やアイデア、分野を越えて関わるものを本計画では「地域の芽」としています。

VI. 活動目標の設定

将来像の実現に向けて取り組む活動のうち、重点活動と位置付けた取り組みについては、その達成状況を把握しやすいよう、活動目標値を設定します。

1、福祉分野の活動目標

基本方針	高齢者の居場所作りを通じて、自ら取り組み、健康寿命延伸を目指す活動を支援する。		
	重点活動	活動目標	活動目標値
	転倒予防体操の普及	健康寿命の延伸	定期、不定期を含めて歩いて行ける範囲での開催

2、防犯・防災分野の活動目標

基本方針	地域の防犯・安全対策を強化する。		
	重点活動	活動目標	活動目標値
	あいさつ運動・見守り活動や防犯パトロールへの支援	あいさつ運動の展開による地域力の向上	あいさつ運動の実施

基本方針	地域力の強化による防災力の向上を目指す。		
	重点活動	活動目標	活動目標値
	HUG(避難所運営ゲーム)の実施	要望に沿ったHUG研修会の充実	HUG研修会の実施

3、子育て分野の活動目標

基本方針	子どもがのびのび遊び、大人が子育てを学ぶ場、子どもと一緒に楽しみ、担い手が育つ場をつくる。	
重点活動	活動目標	活動目標値
子育てサロンわくわくひろばの開催	乳幼児親子の居場所づくり	月3回・年32回開催
子育てサロンはなみの開催	乳幼児親子の居場所づくり	月1回・年10回開催
わくわくプレーパークの開催	子どもの居場所づくりと育ちを支援する	月2回開催
わくわくプレーパーク（連携事業）	他の郷づくりとの連携	各中学校区での開設
プレーワーカー、サロンスタッフの養成・研修	養成と研修の充実	定期的な開催

4、環境景観分野の活動目標

基本方針	先祖代々受け継がれてきた美しい松林ときれいな砂浜（白砂青松と夕陽の風景）を守る。	
重点活動	活動目標	活動目標値
松林の保全活動（防風林の環境保全）	防風保安林の必要性を啓発	年3回以上の情報発信
松林の保全活動（防風林の環境保全）	ボランティア参加者の募集	年3回以上の情報発信
松林の保全活動（防風林の環境保全）	地域連携の輪を拡大	4団体（現在）→ 8団体

5、交流分野の活動目標

基本方針	地域内活性化につながる活動を行う。	
重点活動	活動目標	活動目標値
「地域の芽」を育てるしくみづくり	システム構築と運用	2020年度から運用開始

参考

1、 検討の経緯

(1) 評価・検証会議

回	開催日	主な内容
第1回	平成30年6月23日	10年間のふくま郷づくりの会の変化、策定会議への思いを語り合う
	平成30年10月1日～11月30日	活動の軌跡を各委員に対して個別に聴取

(2) 市民アンケート・意見交換会

会場、対象等	開催日、実施期間	主な内容
第1回ふくま未来会議 (ふくとぴあ)	平成30年8月4日	14ページ参照
第2回ふくま未来会議 (ふくまりん)	平成30年8月18日	
アンケート調査 (福間小学校区)	平成30年8月6日 ～平成30年9月15日	ふくま郷づくりの会の事業に対する認知度、地域の住みやすさ、住みにくさ、課題、仲間を増やすアイデア等

(3) 策定会議

回	開催日	主な内容
第1回	平成30年7月21日	計画の構成やスケジュール確認
第2回	平成30年9月29日	未来会議、アンケートの報告と内容の共有
第3回	平成30年10月10日	活動分野の計画作りの進捗確認、意見交換
第4回	平成30年11月14日	将来像の検討につなげるワークショップ
第5回	平成30年12月12日	将来像の検討、各活動分野の確認
第6回	平成31年1月9日	計画案の確認
第7回	平成31年2月13日	パブリックコメントの結果を踏まえ、計画案の最終確認

2、福間地域郷づくり計画の検討メンバー

検 証 委 員		
江野 幸子 (委員長)	井原 清之	古財 弘之
小林 義昭	佐伯 美保	白木 光明
沼田 勝記	萩原 利次	花田 徹也
広渡 孝代		

策 定 委 員		
中村 勝利 (委員長)	出光 勝	梅谷 寧次
小林 義昭	佐伯 美保	佐藤 研二
田原 義郎	玉井 恵子	羽田野 真生
平木 俊敬		

地域担当職員及び地域別研修職員 (市職員)		
甲斐 洋平	熊本 伸正	桑森 裕志
佐伯 恭子	榎 俊弥	堀田 典宏
村上 理花	八尋 正文	吉田 雅子

事務局及び進行役		
鈴木 亜希子	波多野 哲平	廣渡 策生
宮木 裕子	山口 恵美	

※名簿は委員長以下 50 音順



2019年3月

福間地域郷づくり推進協議会

〒811-3219 福岡県福津市西福間2丁目7番33号

電話：72-1085 FAX：72-1085

URL <http://wagamachi.city.fukutsu.lg.jp>

E-mail sato-fukuma@cd.wakwak.com